

創ろう、市民自治のゆたかな社会

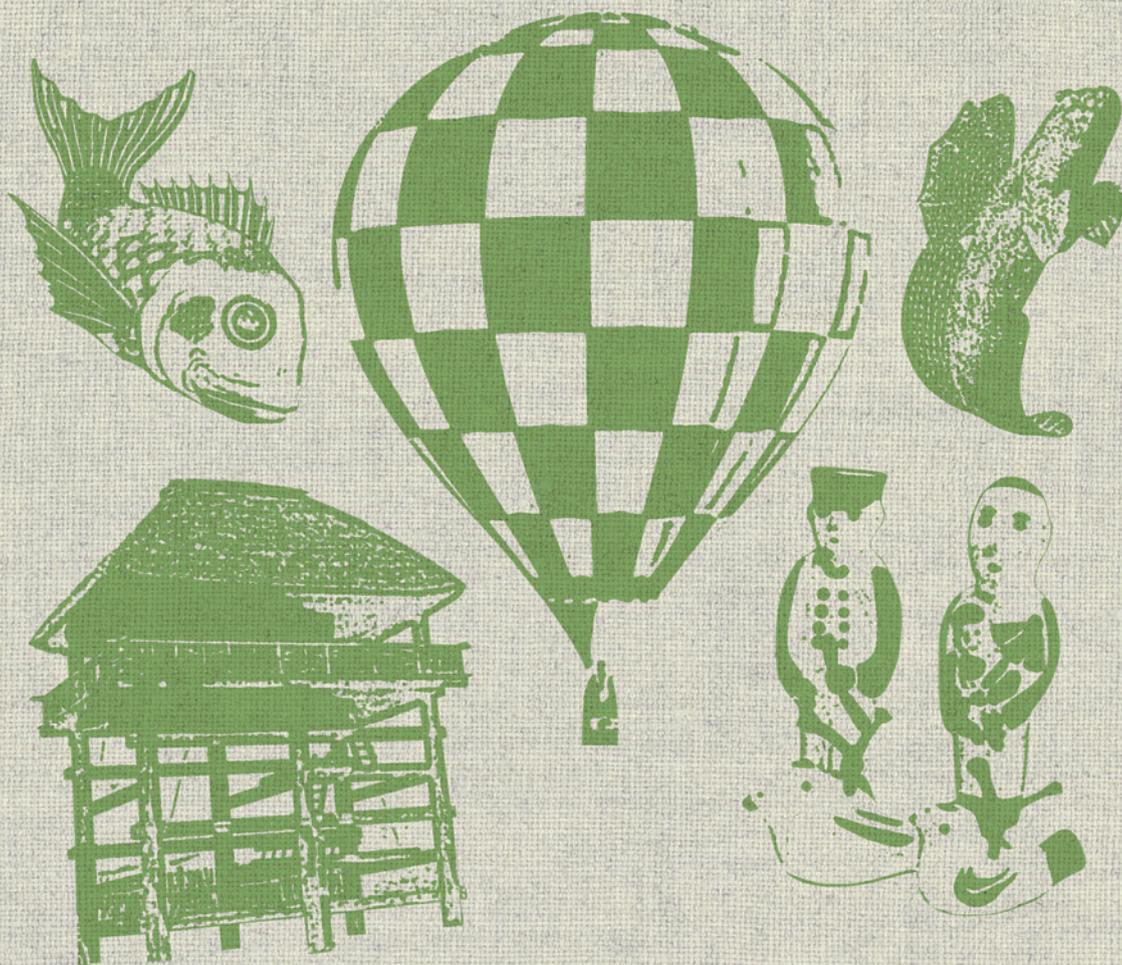


# 佐賀自治研

(第35回地方自治研究全国集会)

## 開催募集要項

毎日の仕事の、ちょっと先。さがしてみよう、わがまちの未来



開催日 2014年10月17日(金)～18日(土)

開催場所 佐賀県佐賀市

主催 自治研中央推進委員会／自治研佐賀県実行委員会

後援 佐賀県、佐賀市、佐賀新聞社  
連合佐賀、佐賀県平和運動センター

Facebook <https://www.facebook.com/Jichikensaga>

## 目 次

全日程一覧	1
I 集会概要	
1. 集会テーマ	3
2. 基本的考え方	3
3. 主 催	5
4. 後 援	5
5. 関連イベントの開催	5
6. 集会会場	6
II 関連イベント概要	7
III 分科会概要（10月18日）	8
IV 自治研レポート・論文、チャレンジサポートの募集	
1. 自治研レポート・論文の募集	21
2. 自治研チャレンジサポートの募集	23
V 宿泊・会場のご案内	
1. 宿泊のご案内	24
2. アクセスのご案内	26
VI 参加申し込み、昼食（お弁当）のご案内	
1. 参加申し込みのご案内	38
2. 昼食（お弁当）のご案内	38
自治研究全国集会参加申込書（第一次）	39

# 第35回地方自治研究全国集会（佐賀自治研）全日程一覧

第1日目 10月17日（金） 全体集会 10：00～17：00

会場：佐賀市文化会館「大ホール」

## (1) スケジュール

10：00	開 会
10：04～10：35	あいさつ（主催者・地元実行委員会・後援団体）
10：35～10：50	基調提起
10：50～12：10	記念講演「みんなが幸せになる、自治体職員の働き方」 九州大学 大学院法学研究院 准教授 嶋田 暁文
12：10～13：10	昼食休憩
13：10～13：20	オープニングアトラクション
13：20～16：40	パネルディスカッション
16：40～16：58	自治研賞表彰・講評・チャレンジサポート発表
17：00	休 会

## (2) パネルディスカッション

テーマ「毎日の仕事の、ちょっと先。さがしてみよう、わがまちの未来」

<パネリスト>

### ・津田 大介さん（ジャーナリスト／メディア・アクティビスト）



1973年生まれ。東京都出身。

メディア、ジャーナリズム、IT・ネットサービス、コンテンツビジネス、著作権問題などを専門分野に執筆活動を行う。ソーシャルメディアを利用した新しいジャーナリズムをさまざまな形で実践。主な著書に『ウェブで政治を動かす！』（朝日新書）、『動員の革命』（中公新書ラクレ）、『情報の呼吸法』（朝日出版社）ほか。2011年9月より週刊有料メールマガジン「メディアの現場」を配信中。

### ・嶋田 暁文さん（九州大学・大学院法学研究院 准教授）



1973年生まれ。島根県安来市出身。

日本学術振興会特別研究員（2002年4月～2004年3月）、地方自治総合研究所非常任研究員（1999年6月～2004年3月）を経て、2004年に九州大学助教授として赴任。専門は行政学、地方自治論。主な著書に『政策実施』（ミネルヴァ書房）、『現代日本の地方自治』（敬文堂）、『ポスト分権改革の条例法務』（ぎょうせい）（以上、いずれも共著）など多数。

### ・川副 知子さん（佐賀県CSO推進機構・代表理事）



1940年生まれ。富山県出身。

結婚後、佐賀県に移住。「特定非営利活動法人 ふくしさとづくりの会」の立ち上げなど数多くの市民組織の創設・活動に携わる。2004年から佐賀県全域を対象とした中間支援組織「特定非営利活動法人 佐賀県CSO推進機構」代表となる。新しい公共サービスの担い手となる市民組織の支援に携わり、行政と県民・市民活動団体の新たな協働のあり方を探る。佐賀県小城市在住。

○その他のパネリスト、コーディネーターについては調整中です。

○スケジュールは変更となる場合があります。予めご了承ください。

第2日目 10月18日（土） 分科会 9：30～16：00

会場：佐賀市内の会場に分散

第1分科会 「住民との協働でつくる地域社会」

第2分科会 「地方税財政と公共サービス」

第3分科会 「人口減少にともなう自治体・地域のあり方  
— 不安解消の糸口は身近なむらにあり —」

第4分科会 「地域から考える再生可能エネルギーによるまちづくり」

第5分科会 「発信しよう！ 地域の農（林水産）業  
つながろう！ 生産者（地）と消費者（地）」

第6分科会 「セーフティネットとしての公共交通」

第7分科会 「ワークショップ『自治研』 楽しく学ぶ自治研活動」

第8分科会 「男女がともにつくる、私たちのまち  
— 子育て、働き方、地域との関わり —」

第9分科会 「平和と共生のために、自治体は……」

第10分科会 「貧困・格差社会の是正とセーフティネットの再構築」

第11分科会 「『生活者の多様性に根差した災害への備え』をめざして  
— 男女共同参画、要援護者視点などを反映した災害事前対応の確立 —」

第12分科会 「地域包括ケアシステムの構築 — 現場の経験を活かす —」

第13分科会 「自治体からはじまる地域教育へのチャレンジ  
— 図書館・学校現場から見えてくるもの —」

# I 集会概要

## 1. 集会テーマ

- メインテーマ 「創ろう、市民自治のゆたかな社会」
- サブテーマ 「毎日の仕事の、ちょっと先。さがしてみよう、わがまちの未来」

## 2. 基本的考え方

### (1) わたしたちを取り巻く情勢

- ① 2013年12月、地方分権有識者会議が発表した「地方分権改革の総括と展望（中間とりまとめ）」では、これまでの国主導の分権改革から転換し、地域から改革を提案していく地域主導型の改革が示されました。あわせて、自治体には分権改革の成果を住民に還元していくことや、住民自治の拡充が期待されています。
- ② この間、厳しい地方財政のなかで、自治体は正規職員の人員削減と民間事業所への委託を進めてきました。公共サービスを支える地方公務員数は19年連続で減少する一方、公共サービスの現場で不可欠な存在となった臨時・非常勤等職員は70万人に上ると推計されています。しかし、依然として臨時・非常勤等職員の賃金労働条件は低位におかれ、雇用は不安定なままです。近年では必要な人材を確保するのにも苦慮するといった事態を招いており、現場の摩耗は限界にきています。
- ③ 日本は本格的な人口減少社会に突入し、人口構造の急激な変化は、従来の制度では包摂できない、さまざまな問題を生じさせています。過疎の進行、都市部の過密化が進むなかで、過疎地域も都市部も公共サービスの持続可能性が問われており、それぞれに深刻な課題を抱えています。また、住民ニーズは多様化・複雑化してきており、限られた人材と予算のなかで地域の声に応えていくには、住民自治を高め、地域資源を活用していく必要があります。今後、急激に変化する地域の環境に対応するためには、「企画・立案は国、実施は自治体」といった旧態依然の思考回路は通用しません。マニュアル型の行政運営から、地域に求められる公共サービスとは何か住民とともに導き出す、高度なマネジメント力を兼ね備えた職員を地域は求めています。
- ④ 格差社会の固定化により、将来設計をたてることのできない若者の増加は、地域のみならず日本にとっても大きな損失です。また、地域住民の生活を支える行政にとっても傍観しているわけにはいきません。貧困が広がるなか、痛ましい事件や事故がおこるたび、糾弾の矛先は行政に向けられます。何が求められており、行政として何ができるのか、できない場合はどうするのか、解決の糸口は地域住民との丁寧な議論の積み重ねしかありません。「地方自治は民主主義の学校」と言われます。住民自治を機能させ合意形成をはかっていく役目を担う自治体職員の実践が問われています。

### (2) 地域が求める職員像と自治研の活かし方

- ① 自治研では、公共サービス労働者が、みずから地域にとけこみ活動するなかから地域のニーズや困りごとを発掘し、政策立案を行っていく「地域のコーディネーター役」となる

ことをめざしてきました。一方で、集会参加者からは、公務員バッシングや業務量の増大により、地域に出ていく余裕がないとの声が寄せられており、自治研がめざす職員像と現場感覚の隔たりは、依然として大きいものがあります。

- ② この間、福祉の現場を中心として、NPOやボランティアなどの地域資源を積極的に活用しながら、地域のニーズをもとに必要なサービスを提供していく施策が相次いで行われてきました。人口が減少していく社会において、このような流れは勢いを増すことが想定され、これまで以上に職員のコーディネート力が求められてきます。職員と住民の垣根をこえて対等に対話することが可能となり、具体的な政策提言をまとめていく基礎となる自治研の魅力をあらためて浸透させ、分権を地域から押し上げ自治体の底力を高めていく必要があります。
- ③ 前回の第34年次自治研集会の総括では、「具体的な取り組み事例が乏しく、意図が浸透していない」「具体的にどう自治研活動を行うのかわからない」との意見が寄せられました。自治研推進委員からも県内単組の自治研活動が「偉い先生を呼んで講演を聞くのが自治研になってしまっている」「職場自治研が消えている」との発言がありました。これまで半世紀にわたって積み重ねてきた自治研活動を継承しつつも、地域や職場にとって求められている自治研とは何なのか、時代に対応した自治研像を打ち出していく必要があります。

### (3) 佐賀自治研がめざす方向性

- ① このような認識を踏まえ、佐賀自治研ではこれまでの地域のコーディネーター役をめざす考え方を継承しつつも、より職場や地域の目線にたった具体的な課題へ引き寄せて考える機会としたいと考えています。佐賀自治研では、2010年の愛知自治研でのテーマであった「なぜ自治労は自治研に取り組むのか」の考え方を土台に、2012年の兵庫自治研で提案した「地域のコーディネーター役」を見据えたとき、なりきれない職場・職員の課題を問い直すことで、地域と職場をつなぐ自治研をとりもどす「再出発」をめざします。
- ② 人口が減少していく社会において、地域や公共サービスのあり方が大きく変わろうとしています。公共サービス労働者にとっての「よい仕事とは何か」「よいサービスを提供していくとはどういうことか」を曲がり角の今だからこそ立ち止まって考え、個々人の思いを自治研に集積し共有化していくことをめざします。半歩先を見据え、わが地域や職場をどのようにデザインしていくか展望することで、今何が必要なのかを考える機会とします。国と地方のあり方や地域が輝くまちづくり、それらを生み出す原動力となる公共サービス労働者の働き方を創造します。
- ③ また、職員が地域のために何かを思いついたとき、試行錯誤の場として自治研に手を伸ばしてもらえよう、先進事例や成功事例だけではなく、自治研の“芽”となる事例を紹介することで、集会を起点に地域や職場に自治研をとりもどす契機としたいと考えています。

### 3. 主 催

第35回地方自治研究全国集会（佐賀自治研）は、地元実行委員会および自治研中央推進委員会が企画・運営にあたります。

#### (1) 地元実行委員会

- ① 名 称 第35回地方自治研究全国集会佐賀県実行委員会
- ② 所在地 〒840-0801  
佐賀市駅前中央3-3-30 自治労会館内
- ③ 連絡先 TEL：0952-33-3345 FAX：0952-34-1121  
E-mail：saga-jichiken@j-saga.jp

#### (2) 自治研中央推進委員会事務局

- ① 名 称 第35年次自治研中央推進委員会
- ② 所在地 〒102-8464  
東京都千代田区六番町1 自治労会館5F 総合政治政策局内
- ③ 連絡先 TEL：03-3263-0274 FAX：03-5210-7422  
事務局直通携帯電話 090-1611-4840 090-2246-1286（集会期間中のみ）  
E-mail：jichiken-honbu@jichiro.gr.jp  
自治研HP：http://www.jichiro.gr.jp/jichiken/  
佐賀自治研集会特設Facebook：https://www.facebook.com/Jichikensaga

### 4. 後 援

佐賀県、佐賀市、佐賀新聞社、連合佐賀、佐賀県平和運動センター

### 5. 関連イベントの開催

- ① 10月16日（木）18：00～20：00 自治研パブリックセッション（詳細は7ページ参照）
- ② 10月17日（金）18：00～20：00 自治研 meets 佐賀「お城下ナイトウォーク」（詳細は7ページ参照）
- ③ 10月16日（木）18：00～ 実行委員会主催歓迎レセプション
- ④ 10月17日（金）18：00～ 自治研センター交流会

※ ③④の参加対象となる関係者の方には別途ご案内します。

## 6. 集會会場（詳細は33～37ページ参照）

### (1) 全体集會会場

会場名	住所・電話番号	その他
佐賀市文化会館 「大ホール」	〒849-0923 佐賀市日の出1-21-10 TEL：0952-32-3000 FAX：0952-32-3736	・JR長崎本線佐賀駅から徒歩20分 ・佐賀駅バスセンターから臨時シャトルバスで10分 (詳細は33ページ参照)

### (2) 分科会会場（分科会会場は参加者集約終了後お知らせします）

会場名	住所・電話番号	アクセス	地図
自治労会館	〒840-0801 佐賀市駅前中央3-3-30 TEL：0952-33-3345	JR佐賀駅〔北口〕から 徒歩11分	P34
佐賀市文化会館	〒849-0923 佐賀市日の出1-21-10 TEL：0952-32-3000	JR佐賀駅〔北口〕から 徒歩20分	P35
佐賀市民会館	〒840-0054 佐賀市水ヶ江1-2-20 TEL：0952-24-5271	JR佐賀駅〔南口〕から 徒歩20分	P37
アバンセ	〒840-0815 佐賀市天神3-2-11 (どんどんの森内) TEL：0952-26-0011	JR佐賀駅〔南口〕から 徒歩9分	P34
佐賀県駅北館	〒840-0804 佐賀市神野東2-6-10 TEL：0952-97-9767	JR佐賀駅〔北口〕から 徒歩4分	P34
佐賀県教育会館	〒849-0916 佐賀市高木瀬町東高木227-1 TEL：0952-31-7131	JR佐賀駅〔北口〕から 徒歩15分	P35
佐賀県青年会館	〒849-0923 佐賀市日の出1-21-50 TEL：0952-31-2328	JR佐賀駅〔北口〕から 徒歩25分	P35
ホテル龍登園	〒840-0203 佐賀市大和町大字梅野120 TEL：0952-62-3111	JR佐賀駅から車で15分	P36

## Ⅱ

## 関連イベント概要

参加者同士の交流イベントを企画しました。自治研と佐賀の魅力満載のイベントです。事前申込制とさせていただきますので、参加を希望される方は、参加申込書にご記入の上お申し込みください。集会参加費とともに請求させていただきます。

### <自治研パブリックセッション>

集会前夜に開催される自治研パブリックセッションでは、自治研ビギナーが自治研に入りやすいように、敷居をぐっと下げた企画をご用意しました。それぞれのテーマに合わせたトークセッションの中から、仕事に追われる日々の中で、見失いがちな感覚を取り戻しませんか。参加者同士の交流も自治研の醍醐味です。おいしい軽食をご用意してお待ちしています。

#### コース① 「歴代自治研賞受賞活動：政策起業のその後！」

自治研をきっかけに、地域で数々の政策起業が生まれています。歴代自治研賞を受賞した自治研の先輩に後日談と本音を聞きます。

時 間：10月16日（木） 18：00～20：00

場 所：佐賀市文化会館

参加費：3,000円

#### コース② 「UNDER35（35歳以下の参加者）限定企画『わたしの自治研活用術』」

「ぶっちゃけ、ジチケンって何？」という自治研ビギナー大歓迎。これからは担う若手職員同士で、仕事や自治研の活用法について話しませんか？ 自治研だから出会える人がきっといます。

時 間：10月16日（木） 18：00～20：00

場 所：佐賀市文化会館

参加費：3,000円

### <自治研 meets 佐賀>

#### コース③ 「～恵比須・化け猫・河童伝説～

##### 佐賀のお城下ナイトウォークツアー2014秋SPECIAL『神無月十七番目の夜』

佐賀城下の怖い伝説や歴史をガイドの説明を聞きながら歩く夜の散策。あなたの地域のまちづくりにも役立つこと間違いなし！

時 間：10月17日（金）18：00～20：00（雨天でも実施）

集合場所：「龍造寺八幡神社」境内

佐賀市白山1丁目3-2

（JR佐賀駅から徒歩15分）（30ページ★印参照）

参加費：1,800円

募集定員：25人（最小催行人数10人）

主 催：魅力発掘プロデュース協会



## 第 1 分 科 会

タ イ ト ル	住民との協働でつくる地域社会
推 進 委 員	座 長：後 藤 真 彦（山梨県本部） 副座長：津 野 誠（高知県本部） 記 録：平 野 明 紀（岩手県本部）
本部推進委員	野 角 裕美子（組織拡大局長）
担 当 書 記	柳 沢 ちあき（総合企画総務局）

項 目	内 容
テ ー マ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 私たちの働き方を考える</li> <li>● 公共サービスのあり方を変える</li> </ul>
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共サービスの担い手が多様化する中で、いかに市民・住民を巻き込み、地域に必要な公共サービスを守り育てていくかについて、さまざまな「働き手」（公務員・臨時非常勤等職員・公共サービス従事者・指定管理者等）の相互理解・連帯の中で考えます。</li> <li>● 多種多様化する住民ニーズへの対応を迫られている中、公共サービスに関する合意形成の手法や私たちの働き方を見直す中で、自治体における住民と職員の新たな関係性を、各地の先進事例を元に探ります。</li> </ul>
課題解決に向けた 先進的活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 野洲市の市民生活相談課専門員の立場から考える私たちの仕事</li> <li>● 佐賀市立公民館職員によるコミュニティ事業に関する提言活動</li> </ul>

項 目	内 容
タイムスケジュール	<午前>
	9 : 30 開 会
	9 : 40 基調講演（質疑含め） 「野洲市が取り組む相談支援 市民のためにツナガルしくみ」 生水 裕美（野洲市市民部市民生活相談課専門員）
	11 : 20 要請レポート発表2本 ・「参加と協働のまちづくりのために — 公民館から見えるまちづくり —」 佐賀県本部／佐賀市立公民館職員労働組合 ・「公契約条例と自治体職員・労働組合の課題」 北海学園大学准教授 川村 雅則
	11 : 50 昼食休憩
	<午後>
	13 : 00 コーディネーターからの提起 平井 一臣（鹿児島大学教授）
	13 : 20 自主レポート発表
	14 : 05 休 憩
	14 : 15 パネルディスカッション（グループ討議、質疑含め）
	15 : 50 ま と め
	16 : 00 閉 会

## 第 2 分 科 会

タ イ ト ル	地方税財政と公共サービス
推 進 委 員	座 長：吉 村 光 弘（福岡県本部） 副座長：池 田 高 正（大阪府本部） 記 録：佐 藤 孝（福島県本部） 富 田 章 史（岡山県本部）
本部推進委員	伊 藤 和 寿（政治局長）
担 当 書 記	佐 藤 政 則（総合労働局）

項 目	内 容
テ ー マ	財政分析によって自らの自治体の問題点、課題を知り、自治研活動にどうつなげていくかを考えます。また、財政運営のチェック機能の強化のために議員とどのように連携して取り組むかを議論するとともに、福島の避難自治体の財源調達、中間貯蔵施設保管期間中の自治体運営、帰還困難区域を始め区域間の税負担とサービスの格差など避難自治体のあり方について考える機会とします。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	① 福島原発により自治体機能移転を行っている自治体の交付税算定や財政運営の現状と課題 ② 財政難における市民と協働した公共サービスの提供 ③ 財源確保に向けた取り組みと課題
課題解決に向けた 先進的活動	① 大阪府本部が開発した簡単財政分析ソフトを使った学習と課題への取り組み ② 地方議会における財政運営チェックの取り組み

項 目	内 容
タイムスケジュール	<午前> 9 : 30~12 : 00 「避難自治体の財政と公共サービス」
	9 : 30 開会あいさつと分科会運営内容説明 (座長)
	9 : 40 要請レポート 「避難自治体における財政の現状と課題」 福島県本部/福島県議会「民主・県民連合」・県議会議員 宮下 雅志
	10 : 10 自主レポート 「避難自治体『柵葉町』財政の現状」 福島県本部/執行委員 佐藤 孝
	10 : 25 助言者からのコメント 国立大学法人静岡大学・男女共同参画推進室・特任准教授 的場 啓一 (公財) 地方自治総合研究所・研究員 飛田 博史
	10 : 50 休 憩
	11 : 00 意見交換
	12 : 00 昼 食
	<午後①> 13 : 00~14 : 50 「財政的な自立と再建」
	13 : 00 要請レポート 「財政分析ソフトを使った忠岡町財政の分析と課題」 大阪府本部/執行委員 二重 幸生
	13 : 30 助言者からのコメント
	13 : 45 意見交換
	14 : 15 自主レポート 「合併・非合併から見える財政運営 — 合併がもたらした影響を考える —」 新潟県本部/柏崎市職労 竹内 崇史
	14 : 30 意見交換
	14 : 50 休 憩
	<午後②> 15 : 00~16 : 00 「議会のチェック機能と地方財政」
	15 : 00 自主レポート 「議会における事務事業評価」 大分県本部/大分市議会議員 日小田良二 「議会から診た筑後市財政」 福岡県本部/筑後市議会議員 富安 伸志
	15 : 15 助言者からのコメント
	15 : 25 意見交換
	16 : 00 全体まとめ・終了

## 第 3 分 科 会

タ イ ト ル	人口減少にともなう自治体・地域のあり方
サブタイトル	不安解消の糸口は身近なむらにあり
推 進 委 員	座 長：住 友 光 弘（徳島県本部） 副座長：木 村 和 弘（奈良県本部） 記 録：金 子 利 光（熊本県本部）
本部推進委員	高 柳 英 喜（企画局長）
担 当 書 記	ラム レベッカ（総合政治政策局）

項 目	内 容
テ ー マ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2005年、史上初めて日本の総人口が減少に転じて以来、人口減少が社会的な課題となってきました。本年5月、増田寛也元総務相を座長とする日本創生会議は、「2040年までに、全国の市区町村の半数が消滅する可能性がある」というレポートを発表し、「消滅可能性都市」896自治体を公表しました。これは自治体関係者など、社会全体に衝撃を与え、7月、全国知事会はこのまま地方の人口が減り続ければ、多くの自治体が消滅しかねないとの強い懸念から「少子化非常事態宣言」を打ち出すに至りました。国は人口減少を克服するために「地方創生本部」をおくとしていますが、その先行きは定かではありません。</li> <li>● このようなマクロの状況を踏まえながら、地方はもちろん、都市部でも危機的状況にあることが指摘され始めた過疎化の問題や、少子高齢化の問題とあわせながら、改めて地域・自治体の維持・存続に向けて、どのような取り組みが必要なのか（できるのか）、について、助言者とともに、以下のような点を切り口に考えます。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 社会・地域にとって、人口減少の何が問題なのか（問題ではないのか）を検証します。</li> <li>② 高齢化や出生率の低下によるもの、転居・転出によるもの等、人口減少の要因を分析します。</li> <li>③ 人口減少（増加）について事例を通して検証します。</li> </ol> </li> </ul> <p>&lt;レポートのあり方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地方における課題・事例と、都市部における課題・事例に関する報告</li> <li>● 生活圏としての小規模コミュニティ（=むら）における、地域の再構築に向けた事例に関する報告</li> </ul>

項 目	内 容
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	①そもそも人口減少問題とは何か、②人口減少問題は何が問題なのか（なぜ将来不安につながるのか、私たちが住み、生活し、働いている地域の現状と将来は？）を考えた上で、それぞれの地域・現場目線で身近なむらを元気に、明るく、暮らしやすくする取り組みを進めます。
課題解決に向けた 先進的活動	徳島県・旧東祖谷山村における一人暮らしのお年寄りの安否を確認する目的で、朝起きた時に旗を軒先や玄関に掲げる取り組み。
タイムスケジュール	<p>9：30 開 会 副座長による分科会開催趣旨説明</p> <p>9：40 助言者山下先生による人口減少問題等に関する 基調提起および質疑 山下 祐介（首都大学東京・准教授）</p> <p>10：30 要請レポート発表 ① 「高齢化率100% 11世帯19人の地域に4万人（事例報告） — 『弁財天』集落で石楠花一万本の取り組み —」 奈良県本部／宇陀市職員労働組合</p> <p>10：50 地方・中山間地域・過疎に関するテーマでの報告（3本） — 自治研レポート集より —</p> <p>11：50 助言者からの講評およびフロア討議</p> <p>12：20 昼食休憩</p> <p>13：20 開 始 要請レポート発表 ② 「多摩市の少子・高齢化の現状と課題」 東京都本部／自治労多摩市職員組合</p> <p>13：40 大都市・都市部に関するテーマでの報告（1本） — 自治研レポート集より —</p> <p>14：00 助言者からの講評およびフロア討議</p> <p>14：20 休 憩</p> <p>14：35 再 開 「人口減少・少子高齢化・過疎化」「地域づくり」 等に関する全体でのフリーディスカッション</p> <p>15：50 座長によるまとめ</p> <p>16：00 閉 会</p>

## 第 4 分 科 会

タ イ ト ル	地域から考える再生可能エネルギーによるまちづくり
推 進 委 員	座 長：釜 崎 正 義（長崎県本部） 副座長：岩 崎 研 司（栃木県本部） 司 会：猪鹿月 弘 行（鹿児島県本部） 記 録：榊 本 康 仁（山口県本部）
本部推進委員	山 本 善 久（公営企業局長）
担 当 書 記	高 島 雅 子（総合政治政策） 高 松 彩 夏（総合政治政策）

項 目	内 容
テ ー マ	各自治体の自然エネルギーへの取り組みは、スタートしたばかりと言えます。本分科会では、地域の特色を生かした再生可能エネルギーの推進・省エネ対策・災害時電源など地域全体のエネルギー活用について、将来を見据え主体的にかかわっていく方向性を発信します。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	人口減少を見据え、地域経済の活性化に対応する自然エネルギーの可能性を探ります。 地域の自然環境と住民の暮らしを基本に、各自治体の再生可能エネルギーや省エネ政策の実践をめざします。
課題解決に向けた 先進的活動	次世代エネルギーを活用したまちづくり <例> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「太陽光王国」佐賀県の取り組み</li> <li>● 藻類バイオマスプロジェクト</li> <li>● ノリ養殖場と下水処理場の省エネ対策</li> <li>● 地熱発電など効率的な発電技術の開発</li> <li>● 地方自治体による再生可能エネルギー普及の取り組み等</li> </ul>

項 目	内 容
タイムスケジュール	<午前>
	9:30 開 会 分科会基調提起
	9:40 講演 1 「再生可能エネルギーを活用するまちづくり」 増原 直樹（総合地球環境学研究所 プロジェクト研究員）
	10:30 休 憩
	10:40 講演 2 「次世代エネルギーを活用したまちづくりについて」 久保 信治（薩摩川内市 新エネルギー対策課長）
	11:30 レポート発表
	① 「芸北『せどやま』再生事業 — 美しい里の景観づくりと地域活性化 —」 広島県本部／北広島町職員労働組合 頼政 孝治 (代理の方が出席)
	② 「積雪寒冷地における再生可能エネルギーの地産地消を めざした組合員および市民を対象とした 新エネルギー学習会の取り組み」 青森県本部／青森県職員労働組合 三上 一
	11:50 質疑応答
	12:00 昼 食
	12:45 出発予定
	<午後>
	13:00 フィールドワーク（移動時間含む）
	【見学先】吉野ヶ里メガソーラー発電所 てるてるの森 佐賀市下水浄化センター（消化ガス発電、汚泥たい肥化施設等）
	【見学先施設間バス移動時間放映DVD】
	① 超巨大イカ!? 呼子に現る
	② 浮体式潮流・風力ハイブリッド発電 [skwid] 紹介映像
※ お手洗いはフィールドワーク先で。	
16:00 佐賀駅解散予定	

## 第 5 分 科 会

タ イ ト ル	発信しよう！ 地域の農（林水産）業 つながろう！ 生産者（地）と消費者（地）
推 進 委 員	座 長：中 條 貴 仁（東京都本部） 記 録：又 市 秀 治（富山県本部）
本部推進委員	小 山 芳 彦（連帯活動局長）
担 当 書 記	羽 鳥 竜（総合組織局）

項 目	内 容
テ ー マ	農（林水産）業は地域と人の暮らしを持続的に支え、国土保全をはかるための社会的共通資本です。ですが近年、農（林水産）業を取り巻く状況は、担い手不足などにより厳しさを増しています。しかし地域には、さまざまな資源があり、地域特性を生かした取り組みを進めている自治体もあります。そのため、自治体やNPO、企業、地域住民が連携して、地域資源と地域特性を生かし農（林水産）業の魅力を発信するとともに、消費者への理解を深め、地域の農（林水産）業を活性化していくための方策を模索します。また、農（林水産）業の活性化をめざし、自治体がどのように関わっていく必要があるかを議論します。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	地域住民やNPO、企業、行政などがどのように連携し、わがまちの農（林水産）業を活性化していくのか
課題解決に向けた 先進的活動	佐賀“食と農”絆づくりプロジェクト活動

項 目	内 容
	9 : 30 開 会
	9 : 40 講 演
	「農（林水産業）の活性化と地域のつながり（仮）」
	五十嵐 勉（佐賀大学教授・絆づくりPT委員）
	11 : 10 要請レポート発表①
	「食育・地産地消～その後の取り組みについて～」
	広島県本部／自治労福山市職員労働組合連合会・
	「食の安心・安全、地産地消プロジェクト」・
	給食士部会・副部長
	宮澤 美子
	11 : 30 要請レポート発表②
	「都市と農（食・みどり・水） — 農ある暮らしを考える —」
	東京都本部／公益社団法人東京自治研究センター・研究員
	藤岡 一昭
	11 : 50 昼食休憩
	12 : 50 パネルディスカッション
	「地域活性化にむけた自治体・地域等の連携の仕方とは（仮）」
	コーディネーター 宇根 豊（自治体農ネットワーク世話人）
	パネリスト① 五十嵐 勉
	（佐賀大学教授・絆づくりPT委員）
	② 宮澤 美子（広島県本部／自治労福山市職員
	労働組合連合会・現業評議会）
	③ 藤岡 一昭（東京自治研究センター・研究員）
	14 : 20 全体討論
	15 : 00 発 表
	15 : 45 ま と め
	16 : 00 閉 会

タイムスケジュール

## 第 6 分 科 会

タ イ ト ル	セーフティネットとしての公共交通
推 進 委 員	座 長：小 林 剛（島根県本部） 副座長：阿 部 嘉 弘（神奈川県本部） 記 録：土 屋 雅 義（岐阜県本部） 武 嶋 直 登（和歌山県本部）
本 部 推 進 委 員	林 崎 勝 之（交通政策局長）
担 当 書 記	遠 藤 恭 彦（財政局）

項 目	内 容
テ ー マ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まちづくり施策と公共交通がいかに連携できるか。</li> <li>● 交通弱者や過疎地域・限界集落の住民の通勤、通学、通院等の手段を確保し、安全に移動できる社会の構築を考える。</li> <li>● 大災害時の公共交通の果たす役割と迅速な復旧に向けた交通ネットワークの形成について。</li> </ul>
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口減少・超少子高齢化社会の中にあって、公共交通は地域住民のために何ができるか。</li> <li>● 地域公共交通をいかに維持し守っていくか。</li> </ul>
課題解決に向けた 先進的活動	熊本市「交通政策条例の策定に関する取り組み」 朝倉市「朝倉市における交通空白地域の解消に向けた取り組み」

項 目	内 容
タイムスケジュール	9：30 開 会
	9：40 講 演「地域における移動手段をどう確保していくのか？ ～地域公共交通の現状と課題～」 嶋田 暁文（九州大学・大学院法学研究院・准教授）
	11：00 質疑応答
	11：10 要請レポート報告 「熊本市における交通基本条例施行に至る経緯と 今後の課題について」 熊本県本部／熊本市交通局労働組合・執行委員長 古賀 弘（都市交通評議会） 「朝倉市地域公共交通体系構築と課題」 福岡県本部／朝倉市職員労働組合・ふるさと課・ 交通対策係 舟木 信広
	12：00 昼 食
	13：00 自主レポート報告 「自治体の施策と連携した公営交通の取り組み — 乗り継がれて78年の市営バス —」 佐賀県本部／佐賀交通労働組合・執行委員長 真島 武司
	13：20 パネルディスカッション 「地域公共交通の『再構築』～現場からの報告と提言～」 コーディネーター：嶋田 暁文 （九州大学・大学院法学研究院・准教授） パネリスト：鈴木 文彦（交通ジャーナリスト） 室 浩一（都市交評・ 中国九州ブロック連絡会・事務局長） 古賀 弘（熊本市交通局労働組合・ 執行委員長）
	15：30 質疑応答、まとめ
	16：00 閉 会

## 第 7 分 科 会

タ イ ト ル	ワークショップ「自治研」 楽しく学ぶ自治研活動
推 進 委 員	座 長：太 田 克 典（山形県本部） 副座長：米 山 憲 一（長野県本部） 記 録：篠 原 輝 雄（京都府本部）
本部推進委員	岸 真紀子（法対労安局長）
担 当 書 記	柳 沢 佳 孝（総合都市交通局）

項 目	内 容
テ ー マ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「自治研ってそもそも何?」、「何をどうしたらいいのかわからない」という声に応えて、自治研に取り組む際の悩みや疑問、どうスタートを切るか、組合員への働きかけはどうすればいいかなどについて、各地の事例を学びます。実際に携わっている人の声から、その楽しさや、やりがい、関わった住民の皆さんの喜びの声などを共有しましょう。</li> <li>● 「これから自治研を始めたい人」、「自治研を推進する担当になった方」集合！ 楽しい、やりがいのある、そして住民から喜ばれる自治研の始め方について「自治研プチ体験」で学びます。</li> </ul>
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	自治研活動入門編「自治研について楽しく学ぶ」
課題解決に向けた 先進的活動	楽しみながら実践する自治研の取り組み

項 目	内 容
タイムスケジュール	9 : 30 開 会
	9 : 35 DVD上映「自治研 きのう・今日・あした」 座長あいさつ
	10 : 15 事例紹介 「楽しみながら実践する自治研の取り組み」 伊藤 藤夫（福井県地方自治研究センター副理事長）
	10 : 30 要請レポート報告 「自治研って何？ 楽しむ自治研、実施中！」 石川県本部／七尾市職員労働組合・自治研対策部 「馬産地日高から『ホッカイドウ競馬』を考える — 観る・知る・参加する —」 北海道本部／日高地方本部
	11 : 00 自主レポート報告
	11 : 30 助言者からのコメント 質疑・意見交換 菅原 敏夫（公益財団法人地方自治総合研究所・研究員） 伊藤 藤夫（福井県地方自治研究センター副理事長）
	12 : 00 昼食交流（自己紹介・職場紹介）
	13 : 00 ワークショップ（自治研プチ体験） 「仕事・地域の課題を自治研で解決しよう！」
	15 : 20 グループ発表
	15 : 40 助言者からのコメント ま と め
	16 : 00 閉 会

## 第 8 分 科 会

タ イ ト ル	男女がともにつくる、私たちのまち
サブタイトル	子育て、働き方、地域との関わり
推 進 委 員	座 長：峯 潔（熊本県本部） 副座長：山 内 一 滋（秋田県本部） 記 録：松 田 直 樹（宮崎県本部）
本部推進委員	榎 本 朋 子（社会保障局長） 松 澤 佳 子（女性部長）
担 当 書 記	三 浦 浩 明（総合組織局）

項 目	内 容
テ ー マ	<p>☆これまでそれぞれ独立した分科会であった「子育て支援」と「男女平等」の2つの分科会を1つに融合したのが佐賀自治研の第8分科会です。</p> <p>なぜ、地域・職場の男女平等は進まないのか、男性の育休取得が進まないのか、地域社会に求められていることを下記2つの視点から考えていきます。</p> <p>① 男女平等とワークライフバランス（WLB）のための法制度の整備は進んでいても、社会での男女平等が進まないのはなぜか。</p> <p>② 子育てを社会全体で進めていくことが必要。そのために自治体は何ができるのか。</p>
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	上記①、②を解決するために、自治体政策として何ができるのか。データおよび具体的事例を参考に会場全体で意見交換をしながら考えていく。
課題解決に向けた 先進的活動	<p>① 職場の男女平等の状況を可視化するために、人事データを解析している単組の事例（大館市・熊本市）</p> <p>② 職員が育児・介護で離職しなくてすむような独自の取り組みをしている職場の事例</p>

項 目	内 容
タイムスケジュール	<p>9：30 基調「子ども・子育て支援法の理念と私たちが求める社会 ～男女平等とWLBの観点から～」 普光院亜紀（保育園を考える親の会代表・ 元子ども子育て新システム幼保一体化 ワーキングチーム委員）</p>
	<p>10：15 パネルディスカッション 「子ども・子育て支援法でWLBはどのような？ 何がかわる？」 コーディネーター：普光院亜紀（保育園を考える親の会 代表・元子ども子育て新システム 幼保一体化ワーキングチーム委員） パネリスト：朝川 知昭 （厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長） 原田智江子 （自治労社会福祉評議会保育部会部会長） 後藤 紀行 （西東京市職員労働組合・執行委員長）</p>
	<p>12：00 昼 食</p>
	<p>13：00 レポートおよび報告 ①&lt;&lt;レポート&gt;&gt;「三重県庁における労使協働の取り組み 『ワーク・ライフ・マネジメント』の開始にあたって」 三重県本部／三重県職員労働組合 副委員長 浜村多栄子 ②&lt;&lt;報告&gt;&gt;「松本市子どもの権利に関する条例制定と取り組み」 長野県本部／松本市職員労働組合 特別執行委員 丸山 晴彦 ③&lt;&lt;報告&gt;&gt;「育児休業に対する意識調査～大館市の事例から」 ④&lt;&lt;報告&gt;&gt;「データでみる男女平等～熊本市の事例から」</p>
	<p>14：00 意見交換 ※ 自主レポートがあれば発表 ☆「地域の活動の中で生まれた絆と生命を守る力」</p>
	<p>15：45 全体まとめ</p>
	<p>16：00 閉 会</p>

## 第 9 分 科 会

タイトル	平和と共生のために、自治体は……
推進委員	座長：山下 義 仁（青森県本部） 副座長：工藤 博 司（滋賀県本部） 青木 清（愛知県本部） 竹田 恵（広島県本部） 記録：青木 清（愛知県本部）
本部推進委員	中村 隼 人（青年部長）
担当書記	川上 奈 月（総合公共民間局）

項 目	内 容
テ ー マ	① 特定秘密保護法施行、私たちの生活への影響を考える ② 共生できるまちづくり ― 多文化共生社会構築のヒント ―
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	① 特定秘密保護法の施行によって自治体・地域生活はどう変わるのかを学び、平和を守る視点から自治体・地域で果たすべき役割を模索する。 ② 外国人労働者の増加や、ヘイトスピーチなどの人権侵害が顕在化するなか、現場の挑戦を通して、共生社会実現のために自治体・地域ができることを提起する。
課題解決に向けた 先進的活動	外国人に対する支援を中心に、共生社会実現のための取り組みを行っている 単組・団体等

項 目	内 容
タイムスケジュール	9 : 30 副座長あいさつ、オリエンテーション
	9 : 40 講 演 「平和と共生をゆがめる政治・社会への対抗」 舟越 耿一（長崎大学名誉教授）
	11 : 15 質疑応答
	11 : 30 昼 食
	12 : 30 要請レポート① 「グローバル化するケア労働と外国人ケア労働者」 九州大学比較社会文化研究院・准教授 小川 玲子
	13 : 50 休 憩
	14 : 00 要請レポート② 「共生できるまちづくり ― 多文化共生社会構築のヒント ―」 コリアNGOセンター・代表理事 郭 辰雄
	15 : 20 自主レポート 「手話基本条例の制定 ― これからめざすもの ―」 北海道本部／自治労石狩市職員労働組合 鈴木 昌裕
	15 : 40 まとめ、座長あいさつ
	15 : 50 閉 会

## 第 10 分 科 会

タ イ ト ル	貧困・格差社会の是正とセーフティネットの再構築
推 進 委 員	座 長：三 井 清 光（群馬県本部） 副座長：大 藪 進（石川県本部） 記 録：河 合 克 樹（静岡県本部）
本部推進委員	西 村 正 樹（社会福祉局長）
担 当 書 記	会 田 麻里子（総合組織局） 溝 口 慎一郎（総合政治政策局）

項 目	内 容
テ ー マ	いま、日本では、社会のあらゆる局面で、貧困問題が顕在化している。貧困・格差社会においては、生活保護に至る手前で困窮し、孤立する人々をどのように把握・支援するかが課題となる。2015年4月から「生活困窮者自立支援法」が施行され、福祉事務所を設置するすべての自治体で自立相談支援事業が実施される。貧困の連鎖を防ぐために、自治体がどのように実効性を確保していくかを考える。また、生活・就労支援を行うにあたり、福祉事務所・ハローワーク・NPO・社協等と連携して、地域社会におけるセーフティネットをどのように再構築していくか、地域社会と自治体の課題・役割に焦点をあてて議論を行う。また、自治体職員の人材育成のあり方についても検討する。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生活保護に至る手前で困窮し、孤立する人々をどのように把握するか</li> <li>● 生活・就労支援を行うにあたり、地域社会におけるセーフティネットをどのように再構築していくか</li> <li>● 貧困の連鎖を防ぐために、自治体がどのような支援策を講じられるか</li> </ul>
課題解決に向けた 先進的活動	佐賀市（生活困窮者自立促進支援モデル事業実施自治体） 宇佐市、福井市、福岡市、伊万里市、八王子自治研究センター

項 目	内 容
タイムスケジュール	<p>9：30 開 会</p> <p>問題提起：「生活困窮者自立支援をどう実現するのか」 宮本 太郎（中央大学法学部教授）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現代日本における貧困・格差社会の現状</li> <li>● 生活困窮者自立支援法の本格実施にあたって</li> <li>● 社会的包摂と連帯社会の構築</li> </ul> <p>要請レポート、自主レポート、参加者からの報告・質疑、意見交換、 助言者からのコメント</p> <p>佐賀市における生活困窮者支援の取り組みと課題について 佐賀県本部／佐賀市職員労働組合 青柳 勝 市民感覚を大切にしながら ― 生活保護の現場から ― 福岡県本部／福岡市職員労働組合 井上 健</p> <p>若者の貧困から見える課題と自立支援 東京都本部／一般社団法人八王子自治研究センター・事務局長 佐藤千恵子</p> <p>問題提起：「貧困・格差社会の是正とセーフティネットの再構築」 駒村 康平（慶応大学経済学部教授）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 貧困の連鎖の防止</li> <li>● 生活・就労支援と地域社会におけるセーフティネットの再構築</li> <li>● 地域社会と自治体・自治体職員の役割・連携 (ハローワーク、福祉事務所、社協、NPO法人)</li> <li>● 生活保護制度改革</li> </ul> <p>要請レポート、自主レポート、参加者からの報告・質疑、意見交換、 助言者からのコメント</p> <p>16：00 閉 会</p>

## 第 11 分 科 会

タ イ ト ル	「生活者の多様性に根差した災害への備え」をめざして
サブタイトル	男女共同参画、要援護者視点などを反映した災害事前対応の確立
推 進 委 員	座 長：西 尾 祥 之（愛媛県本部） 副座長：栗 山 隆（埼玉県本部） 記 録：大和久 正（千葉県本部） 佐 藤 秀 人（北海道本部・札幌市職） 織 屋 義 已（大阪府本部・大阪市職）
本部推進委員	牧 野 梅三郎（現業局長）
担 当 書 記	竹 谷 望（総合組織局）

項 目	内 容
テ ー マ	来る災害に対し明日を守るために、私たちは事前に何をしなければならないのか。見落とされがちな生活者の多様な視点を盛り込んだ「備え」の確立について、行政・住民・組合という3つの視点から検討する。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	① 単なる備えではなく、「被災者の多様性」を考慮した備え ② 多様な生活者の擁護的側面とそのエンパワメント
課題解決に向けた 先進的活動	高知市女性の視点による南海地震対策検討委員会（高知県高知市） なでしこ防災ネット 女性の視点からの防災対策（神奈川県秦野市） とよなか女性防災プロジェクト（大阪府豊中市）

項 目	内 容
タイムスケジュール	9 : 30 開会 (座長あいさつ・分科会説明)
	9 : 40 講演「生活者の多様性に根差した災害への備え」 北川 慶子 (佐賀大学名誉教授・聖徳大学教授)
	11 : 10 休 憩
	11 : 20 レポート発表 「高齢化社会を踏まえた地域対策 — 災害時における地域と行政の協働体制について —」 佐賀県本部／伊万里市・特定非営利活動法人 NPO栄町地域づくり会
	12 : 00 昼 食
	13 : 00 パネルディスカッション (北川先生のコーディネートのもと、 行政・住民・組合それぞれの立場からのパネリストが登壇) コーディネーター 北川 慶子 (佐賀大学名誉教授・聖徳大学教授) パネリスト (行政) 佐賀県 防災関係課 (住民) 伊万里市 特定非営利活動法人 NPO栄町地域づくり会 (組合) 自治労組合員
	質 疑
	15 : 30 分科会まとめ
	16 : 00 閉 会

## 第 12 分 科 会

タ イ ト ル	地域包括ケアシステムの構築
サブタイトル	現場の経験を活かす
推 進 委 員	座 長：隅 田 龍（兵庫県本部） 副座長：鈴木 秀 教（茨城県本部） 野 村 まゆみ（東京都本部：衛生医療評議会）
本部推進委員	伊 藤 邦 彦（衛生医療局長）
担 当 書 記	杉 崎 穰 滋（総合企画総務局） 大 網 裕 美（総合政治政策局）

項 目	内 容
テ ー マ	地域包括ケアシステムは地域特性や社会資源のあり方に大きく依存するため、全国一律的な方法では構築できない。厚生労働省は積極的に先進事例を紹介しているが、これらの事例を地域に適用しようとしても、簡単ではない。分科会では地域包括ケアシステムを生活保障システムとして位置づけることを提案するとともに、これまでの現場での取り組みの経験を踏まえ、よりよい地域包括ケアシステムの構築に向けた諸条件を考える。
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	この間「地域におけるコーディネーター」となり地域コミュニティのつなぎ役をめざしてきた自治研活動にとって「安心して暮らせる地域社会づくり」をめざす地域包括ケアシステムの構築は中心的課題のひとつである。
課題解決に向けた 先進的活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 厚生労働省の事例紹介の自治体（先進10事例） 千葉県柏市、新潟県長岡市、東京都世田谷区、鳥取県南部町、三重県四日市市、大分県竹田市、熊本県上天草市、埼玉県川越市、鹿児島県大和村、鳥取県</li> <li>● 自治研作業委員会の設置、自治研集会へ中間報告</li> </ul>

項 目	内 容
タイムスケジュール	<午前>地域包括事例レポート（ポスターセッション）
	9：30 開会・オリエンテーション
	9：40 ポスターセッション
	* 6レポートを6ブースで報告、参加者を6つのグループに分け、時間を区切って各ブースを回っていただき、発表者との双方向の意見交換を行う
	<ポスターセッション（題名はすべて仮題）>
	○「地域ケア会議と自立支援型ケアマネジメント」 鳥取県北栄町地域包括支援センター 池田 伸夫
	○「高知市の福祉部門における出先機関の再構築試案」 高知市職書記長 池添 健太
	○「行政社会福祉士が取り組む『法福連携』」 桑名市高齢福祉課中央地域包括支援センター 西村 健二
	○「公立病院が担う地域医療の歩み」 公立八鹿病院職員組合 米田 正樹
	○「地域包括支援センターの取り組み」 浜頓別町国保病院介護相談室指定居宅介護支援事業所 塚越 寛
	○「介護保険外事業開発による介護予防と生活支援の展開」 大分県竹田市職 甲斐香代子
	11：40 助言者コメント 井上 信宏（信州大学教授）
	12：10 昼食休憩
	<午後>基調講演・パネルディスカッション
	13：00 基調講演「地域包括ケアの歴史的な位置づけ」（仮） 檀本 真津（愛媛大学総合診療サポートセンター長）
	14：00 パネルディスカッション 「多職種の現場知をどう活かすか」（仮） コーディネーター：井上 信宏（信州大学教授） パネリスト：檀本 真津（医師・病院の立場から） 杉浦 敦子（保健師・看護師の立場から） 小林 一司（医療連携室の立場から） 安東いつ子（訪問看護の立場から）
	16：00 まとめと閉会

## 第 13 分 科 会

タ イ ト ル	自治体からはじまる地域教育へのチャレンジ
サブタイトル	図書館・学校現場から見えてくるもの
推 進 委 員	座 長：山 本 修 哉（富山県本部） 副座長：宮 里 勝（沖縄県本部） 記 録：澁 川 学（香川県本部） 深 田 明 美（三重県本部） 司 会：村 上 哲 也（大阪市職）
本部推進委員	鬼 木 誠（組織対策局長）
担 当 書 記	三 浦 一 力（総合組織局）

項 目	内 容
テ ー マ	<p>日本において、少子高齢化や人口の減少などの要因により、地域社会のあり方が変化し、地域における人間関係の希薄化などの問題が生じています。また一方で東日本大震災を契機に、地域における人と人とのつながりやコミュニティなどの重要性があらためて見直されています。</p> <p>そうした中で、自治体が地域教育を通して人づくり・地域づくりを担うことは重要な要素の一つです。</p> <p>たとえば、図書館や公民館などの生涯学習施設では、市民の学びに対する支援だけにとどまらず、学びを通じて、人と情報がつながりあうことができます。また、学校現場においては地域と学校とが密接に連携しながら、子どもの学びを支える環境づくりが進められており、教育委員会事務局や学校調理、学校環境整備などの職員がさまざまな現場において地域教育に携わっています。</p> <p>本分科会では地域教育における具体的なチャレンジの事例報告を中心に、市民自らが地域課題の解決に取り組む住民自治の形成に向けた“学び”のあり方について考えます。</p>

項 目	内 容
佐賀自治研で 取り上げる 自治研的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域を支える図書館や公民館など公共施設をどのように地域教育に活用していくか</li> <li>● 学校給食や学校環境整備を地域教育にどう生かすか</li> <li>● 地域で考える今後の地域教育の方向性 など</li> </ul>
課題解決に向けた 先進的活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 伊万里市における図書館の取り組み</li> <li>② 京都市の学校給食における食文化・食育の取り組み</li> <li>③ 川崎市の学校環境整備における「伝十郎桃復活」の取り組み</li> </ol>
タイムスケジュール	<p>9：30 開会・趣旨説明</p> <p>9：40 講演「地域に求められる図書館」 猪谷 千香（文筆家・ハフィントンポスト日本版記者） 質疑・応答</p> <p>10：50 要請レポート発表（質疑・応答含む） ・「学校用務業務 ― 川崎発祥『伝十郎桃』復活の 取り組み ―」 神奈川県本部／川崎市職員労働組合・教育支部 伊藤 昇 ・「給食における食物アレルギー全市統一对応に向けて」 京都府本部／京都市学校給食職員労働組合 橋本 正樹</p> <p>11：30 自主レポート報告 ・伊万里市職員労働組合・伊万里市民図書館ほか</p> <p>12：00 昼 食</p> <p>13：00 自主レポート報告（質疑・応答含む） ・石垣市職員労働組合ほか</p> <p>13：30 パネルディスカッション コーディネーター：上林 陽治 （（公財）地方自治総合研究所研究員） パネリスト：猪谷 千香 （文筆家・ハフィントンポスト日本版記者） 伊万里市民図書館 伊藤 昇（川崎市職員労働組合・教育支部） 橋本 正樹（京都市学校給食職員労働組合）</p> <p>15：15 休 憩</p> <p>15：30 会場との意見交換</p> <p>15：45 まとめ・講評</p> <p>16：00 閉 会</p>

# IV

## 自治研レポート・論文、チャレンジサポートの募集

### 1. 自治研レポート・論文の募集

#### (1) 応募方法・応募用紙について

レポートや論文に応募する際は、必ず指定報告用紙を使用、必要事項を明記の上ご応募ください。報告用紙は、自治研ホームページにアクセスし「第35回地方自治研究全国集会レポート募集」のバナーから、報告用紙をダウンロードしてください。応募にあたっては、データと印刷したペーパーの両方を送付してください。

<データ送付先> jichiken-repo2014@jichiro.gr.jp

<ペーパー送付先> 〒102-8464 東京都千代田区六番町1 自治労会館5階  
自治労・自治研事務局 レポート担当宛

#### (2) 応募締切

提出期限は、第一次締切を6月30日（月）とします。最終締切は、7月18日（金）とします。

#### (3) レポート

単組・県本部およびNPO・市民団体、地域研究機関等から研究活動や実践活動についてのレポートを募集します。応募いただいたものは、全国集会において関連するテーマの分科会別レポート報告集に掲載し、第12回地方自治研究賞の自治研活動部門への応募レポートとして取り扱います。なお、優秀賞に選ばれた場合には、自治研集会初日に参加いただく予定です。

<レポート提出にあたっての注意点>

- ① レポートの冒頭に「第〇分科会」と明記してください。各分科会で取り扱うテーマを参照のうえ、レポートを提出する分科会を選択してください。なお、提出分科会の変更をお願いすることもありますので、あらかじめご了承ください。また、提出者の名前、所属、連絡先等を明記してください（連絡先は印刷されません）。
- ② 字数については、6,000字程度（横書き）とし、図表資料等を含め1万字以内に収めてください。
- ③ 集会当日の分科会における報告発表時間については、各分科会の運営により異なりますので、確保できない場合があります。また応募したレポートは返却しません。

#### (4) 論文

自治労内外から広く、地方自治・地域公共サービスに関する論文を募集します。テーマの限定はなく、エッセイや研究報告、実践報告など形式は問いません。自治体職員、地域公共サービス関係者、市民、地域の研究者など（共同でも可）、どなたでも募集できます。応募いただいたものは、全国集会において報告集に掲載し、また第12回地方自治研究賞の自治研論文部門への応募として取り扱います。なお、優秀賞に選ばれた場合には、自治研集会初日にご参加いただく予定です。

<論文提出にあたっての注意点>

- ① 論文の冒頭には「論文」と明記し、提出者の名前、所属、連絡先等を明記してください（連絡先は印刷されません）。

- ② 字数については、8,000字程度（横書き）とし、資料含めて、上限は1万字以内に収めてください。

#### (5) 第12回地方自治研究賞について

第12回地方自治研究賞は、以下のとおり審査・選考し第35回自治研全国集会で表彰します。

##### ① 選考

レポート・論文の募集によって提出されたものに対し、自治研助言者若干名、自治研中央推進委員長、自治研事務局長で構成する選考委員会が審査を行い、本部・中央執行委員会に報告し決定します。第1次選考は8月初旬、最終選考は9月初旬の予定です。

##### ② 表彰

自治研活動部門は、優秀賞1点（副賞20万円）、奨励賞若干（副賞5万円）、自治研研究論文部門は、優秀賞1点（副賞10万円）、奨励賞若干（副賞5万円）とします。表彰は、10月17日の第35回自治研全国集会・全体集会で行います。

##### ③ 地方自治研究賞表彰内規

(1) 地方自治研究賞は、自治労の地方自治確立の運動および自治研活動の発展を期すため、優れた自治研活動ならびに地方自治に関する研究論文を表彰し、もって一層の運動発展に資することを目的とする。

(2) 地方自治研究賞は、次の2部門とし、自治研全国集会において表彰状ならびに副賞を贈呈する。

##### ① 自治研活動部門

優秀賞	1	副賞20万円
奨励賞	若干	副賞5万円

##### ② 自治研研究論文部門

優秀賞	1	副賞10万円
奨励賞	若干	副賞5万円

(3) 自治研活動部門は、自治研全国集会上に提出される各単組・県本部およびNPO・市民団体・地域研究機関等からのレポート・報告を対象とし、自治研研究論文部門は、組合員、地域公共サービス職場の勤労者および地域研究活動等を行う市民から募集した論文を対象として、それぞれ選考する。

(4) 選考は、自治研中央推進委員長、自治研事務局長および自治研助言者若干名で構成する選考委員会が行うものとし、中央執行委員会に報告しなければならない。

(5) 選考にあたっては、次の点を重視する。但し、①は、自治研活動部門のみに適用する。

- ① 職場や地域との共同作業状態（運動との直接・間接的関連）
- ② 争点に対する接近視角ないし問題設定の斬新性と総合性
- ③ 分析の科学性と叙述の説得性
- ④ 成功・失敗にかかわらず、問題提起や将来展望の度合

## 2. 自治研チャレンジサポートの募集

第35年次自治研では、自治研を「試行錯誤が可能なフィールド」としての認知をすすめ、敷居が高く、一部の人だけの自治研ではなく、誰もが気軽に勉強し、挑戦し、経験交流や人材育成に使える場としての自治研を浸透させていきたいと思えます。

そのひとつとして、「自治研チャレンジサポート」を佐賀自治研集会企画の一環として新設し、自治研の“芽”となりうる企画を募集し、採用された企画に対して企画実施のための助成金を給付します。

### (1) 応募要件

- ① 自治労組合員であれば誰でも応募可とします。メンバーに自治労組合員が参加していることを条件に、「自治研部」などのチームでの応募も可とします。
- ② 支援の対象とする活動
  - ・市民自治のゆたかな社会をめざそうとする活動
  - ・職場や地域に自治研活動の浸透をはかる取り組み
- ③ 2016年10月までの実施・活動完了する取り組みを対象とし、チャレンジサポートに採用された企画については、第36回自治研全国集会において活動報告としてレポートを提出していただきます。

### (2) 審査

自治研中央推進委員会および自治研事務局にて構成する選考委員会にて第一次審査を行います。最終審査は佐賀自治研集会にて参加者からの得票の多いものを優秀企画賞（若干数）として表彰します。優秀企画賞に採用された企画に対して、10万円を限度に企画実施にあたっての助成金を給付します。

### (3) 応募方法と締切

応募にあたっては、単組・県本部を経由しての応募に限らせていただきます。最寄りの組合にて「チャレサポ活動計画書」をお取り寄せください。締切後、提出された計画書をもとにすみやかに第一次審査に入り、その結果は、採用・不採用にかかわらず、所属する県本部へ郵送にて9月初旬までにお知らせします。

<応募締切> 2014年7月18日（金）自治労本部必着



## 宿泊・会場のご案内

### 1. 宿泊のご案内

#### (1) 宿泊のお申し込み方法

- ① 参加申込書にご記入をお願いします。
- ② 宿泊ランクの希望をご記入ください。

※ なお、配宿につきましては、ご希望に沿わない場合もございますので、予めご了承をお願いし、実行委員会一任とさせていただきます。お申し込み人員の関係や、実際のお申し込みの場合、分宿となる県本部もございます。あわせてご了承願います。

#### (2) 宿泊料金（希望するホテル、旅館が同じランクであっても料金が異なりますので、決定した後、料金をご連絡することになります。）

ホテルタイプ

記号	1人1室（シングル）
①	9,000円～11,000円
②	7,000円～9,000円
③	6,000円～7,000円

- ・お部屋タイプは洋室タイプで、料金はお一人様あたりの料金です。基本1泊朝食税金・サービス料金を含んでおります。ホテルによっては、簡易なセットメニューとなりますので予めご了承ください。
- ・ツインルームをご希望の場合は、伝言メモ欄にその旨ご記入ください。ただし、ご希望通りにお手配できない場合がございますので予めご了承ください。

旅館タイプ

記号	3～5人1室（和室タイプ）
④	9,000円～11,000円

- ・お部屋タイプは和室タイプで、料金はお一人様あたりの料金です。基本1泊朝食税金・サービス料金を含んでおります。
- ・各県本部でご宴席をご希望の際は、伝言メモ欄にその旨ご記入ください。ただし、ご希望通りにお手配できない場合がございますので予めご了承ください。
- ・夕食付の場合はお一人様追加目安料金として5,400円～6,480円となります。

#### (3) 配宿の決定

配宿につきましては9月26日（金）までに決定し、各県本部に連絡させていただきます。

#### (4) 宿泊取消料金

宿泊前日より起算して ※宿泊10月16日（木）の場合	
15日前の17時30分まで（10月1日）	無料
14日前～8日前の17時30分まで（10月2日～8日）	10%
7日前～2日前の17時30分まで（10月9日～10月14日）	30%
前日の17時30分まで（10月15日）	50%
当日以降および無連絡	100%

## (5) 交通機関のご案内

佐賀市内のホテル数には限りがあるため、宿泊エリアは〔佐賀市内〕の他、〔川上地区〕〔鳥栖地区〕〔嬉野地区〕となります。全体集會会場・分科會会場へのアクセス方法は、宿泊エリアから、JRの利用または臨時シャトルバスの利用となります。

【詳しくは26～29ページ】

### ① 佐賀市内のホテル宿泊者

JR佐賀駅に隣接する「佐賀駅バスセンター」から、集會初日の会場となる「佐賀市文化會館」および集會2日目の徒歩圏外の分科會会場へは臨時シャトルバスを運行いたしますのでご利用ください。

### ② 川上地区のホテル宿泊者

ホテル龍登園より集會初日は「佐賀市文化會館」行き、集會2日目は「佐賀駅バスセンター」行きの専用バスを運行します。徒歩圏外の分科會会場へは、「佐賀駅バスセンター」での乗り換えとなります。

### ③ 鳥栖地区のホテル宿泊者

JR鳥栖駅からJR佐賀駅まで電車を利用し、JR佐賀駅に隣接する「佐賀駅バスセンター」から臨時シャトルバスにお乗り継ぎください。集會初日は「佐賀市文化會館」行き、集會2日目は徒歩圏外の分科會会場行きを運行します。

また宿泊ホテルによっては、集會初日の会場となる「佐賀市文化會館」へ、集會2日目は「佐賀駅バスセンター」へホテルより専用バスで直行することがあります。その場合、徒歩圏外の分科會会場へは、「佐賀駅バスセンター」での乗り換えとなります。

※ JR乗車券（自由席切符）を県本部を通じ事前に一人3枚（10/17往復分、10/18往路分）配付いたします。枚数は最終報告の人数分とします。キャンセルが発生した場合は、10月17日全体集會会場の「総合案内」にて回収いたします。紛失の場合は、代金を徴収させていただきます。

### ④ 嬉野地区のホテル宿泊者

「嬉野温泉バスセンター」から、集會初日は「佐賀市文化會館」へ、集會2日目は「佐賀駅バスセンター」へ専用バスで直行することになります。徒歩圏外の分科會会場へは、「佐賀駅バスセンター」での乗り換えとなります。

## (6) 駐車場

各ホテルおよび分科會会場に駐車場はありませんので、自家用車での参加はご遠慮願います。

## 2. アクセスのご案内

宿泊ホテルから **1日目（10月17日）全体集会会場（佐賀市文化会館）** への移動方法と所要時間

エリア	ホテル名	
佐賀市内	① 佐賀ワシントンホテルプラザ ② ホテルルートイン佐賀駅前 ③ 佐賀シティホテル ④ 東横イン佐賀駅前 ⑤ 四季彩ホテル千代田館 ⑥ アパホテル佐賀駅前中央 ⑦ コンフォートホテル佐賀 ⑧ グランデはがくれ ⑨ 旅館あけぼの ⑩ ホテルニューオータニ佐賀	<p style="text-align: center;"><b>→ 佐賀駅バスセンター</b></p> <p>  徒歩 2分   徒歩 3分   徒歩 5分   徒歩 0分   徒歩 15分   徒歩 3分   徒歩 1分   徒歩 8分   徒歩 15分（車で 5分）   徒歩 20分（車で 7分）         </p>
川上地区	⑪ ホテル龍登園	<p><b>→  20分</b></p> <p>           ■ ホテルから専用バスで直行            ■ 出発時間等については、チェックインの際にお知らせい         </p>
鳥栖地区	⑫ グリーンリッチホテル鳥栖 ⑬ サンホテル鳥栖 ⑭ ルートイン鳥栖駅前 ⑮ プラザホテル鳥栖 ⑯ ビアントス	<p style="text-align: center;"><b>→ JR鳥栖駅 →  約20分 →</b></p> <p>           ■ JR乗車券            ます。            ※ JRの時            らせいた         </p> <p>  徒歩 2            ~ 5分     徒歩 16分（車で 5分）         </p>
鳥栖地区	⑰ チサンイン鳥栖 (⑱ 亀の井ホテル佐賀鳥栖店)	<p><b>→  70分 → 佐賀市文化会館</b></p> <p>           ■ ホテルから専用バスで直行            ■ 出発時間等については、チェックインの際にお知らせい         </p>
嬉野地区	⑲ ホテル華翠園 ⑳ ホテル桜 ㉑ 旅館嬉野館 ㉒ 和多屋別荘 ㉓ ハミルトン宇礼志野	<p style="text-align: center;"><b>→ 嬉野温泉バスセンター</b></p> <p>  徒歩 5～10分         </p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>午前 7 : 45 出発              嬉野温泉バスセンターから</p> </div>

 徒歩
  電車  
 臨時シャトルバス  
 ホテル専用バス

【行き】	【帰り】
<p>→  20分 → 佐賀市文化会館   10分</p> <div data-bbox="376 495 895 629" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">           バスセンター「8番乗り場」            ・午前8:30～9:45            15分間隔で臨時シャトルバス運行         </div>	<p>■全体集会終了後会場から「佐賀駅・佐賀駅バスセンター」まで臨時シャトルバス運行</p>
<p>→ 佐賀市文化会館</p> <p>たします</p>	<p>■全体集会終了後は専用バスがホテルまで直行運転</p>
<p>J R佐賀駅 →  10分 → 佐賀市文化会館            佐賀駅バスセンター</p> <p>(自由席)を事前に配布いたし            (詳しくは25ページ)            刻表はチェックインの際にお知らせします</p> <div data-bbox="491 1283 983 1417" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">           バスセンター「8番乗り場」            午前8:30～9:45            15分間隔で臨時シャトルバス運行         </div>	<p>■全体集会終了後会場から「佐賀駅・佐賀駅バスセンター」まで臨時シャトルバス運行</p> <p>■全体集会終了後は【行き】の逆移動となります</p>
<p>たします</p>	<p>■全体集会終了後は専用バスがホテルまで直行運転</p> <p>■亀の井ホテルへは復路のみ直行バス有</p>
<p>→  60分 → 佐賀市文化会館</p> <div data-bbox="12 1823 253 1912" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">           専用バスで直行         </div>	<p>■全体集会終了後は専用バスが嬉野温泉バスセンターまで直行運転</p>

宿泊ホテルから **2日目（10月18日）分科会会場** への移動方法と所要時間

エリア	ホテル名	
佐賀市内	㉠ 佐賀ワシントンホテルプラザ ㉡ ホテルルートイン佐賀駅前 ㉢ 佐賀シティホテル ㉣ 東横イン佐賀駅前 ㉤ 四季彩ホテル千代田館 ㉥ アパホテル佐賀駅前中央 ㉦ コンフォートホテル佐賀 ㉧ グランデはがくれ ㉨ 旅館あけぼの ㉩ ホテルニューオータニ佐賀	<p style="text-align: right;"><b>→ 佐賀駅バスセンター</b></p> <p>  徒歩 2分    ■ 徒歩圏外の分科会会場へは佐賀駅バ   徒歩 3分    トルバスをご利用ください。   徒歩 5分   徒歩 0分   徒歩 15分   徒歩 3分   徒歩 1分   徒歩 8分   徒歩 15分（車で 5分）   徒歩 20分（車で 7分）                 </p>
川上地区	㉪ ホテル龍登園	<p style="text-align: center;"><b>→  20分 →</b></p> <p>                     ■ ホテルから専用バスで直行                      ■ 出発時間等については、チェックインの際にお知らせい                 </p>
鳥栖地区	㉫ グリーンリッチホテル鳥栖 ㉬ サンホテル鳥栖 ㉭ ルートイン鳥栖駅前 ㉮ プラザホテル鳥栖 ㉯ ビアントス	<p style="text-align: right;"><b>→ JR鳥栖駅 →  約20分</b></p> <p>                     }  徒歩 2                         ~ 5分                      }  徒歩 16分（車で 5分）                 </p> <p>                     ■ JR佐賀駅下車                         へは佐賀駅バス                         ルバスをご利用                      ■ JR乗車券（自                         ます。（詳しく                      ※ JRの時刻表は                         させていただきます                 </p>
鳥栖地区	㉺ チサンイン鳥栖 ㉻ 亀の井ホテル佐賀鳥栖店	<p style="text-align: center;"><b>→  70分 → 佐賀駅バスセンター</b></p> <p>                     ■ ホテルから専用バスで直行                      ■ 出発時間等については、チェックインの際にお知らせい                 </p>
嬉野地区	㉼ ホテル華翠園 ㊀ ホテル桜 ㊁ 旅館嬉野館 ㊂ 和多屋別荘 ㊃ ハミルトン宇礼志野	<p style="text-align: right;"><b>→ 嬉野温泉 バスセンター →  60分</b></p> <p>                     }  徒歩 5                         ~ 10分                 </p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>午前 7 : 15 出発 嬉野温泉バスセンターから専用バスで</p> </div>

【行き】		【帰り】
スセンターより、臨時シャ	<p>① <b>臨時シャトルバスで行く会場</b>            佐賀駅・佐賀駅バスセンター 発  <b>ルートA</b>：教育会館 経由                              佐賀市文化会館                                              青年会館 行き  <b>ルートB</b>：ホテル龍登園 行き  <b>ルートC</b>：佐賀市民会館 行き   バスセンター「8番乗り場」            午前8：00～9：00 15分間隔で運行</p>	<p>■分科会終了後            シャトルバス利用会場は、            「佐賀駅・佐賀駅バスセン            ター」まで臨時シャトルバ            スを運行</p>
<b>佐賀駅バスセンター</b>  たします	<p>② <b>徒歩で行く会場</b>            佐賀駅・佐賀駅バスセンターから   徒歩4分 佐賀県駅北館   徒歩11分 自治労会館   徒歩9分 アバンセ  <b>【34ページ地図参照】</b></p>	
<p>→ <b>J R佐賀駅</b></p> <p>後、徒歩圏外の分科会会場            センターより、臨時シャト            ください。            由席)を事前に配布いたし            は25ページ)            チェックインの際にお知ら</p>		
たします		
<p>→ <b>佐賀駅            バスセンター</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 10px;">             直行           </div>		

# 佐賀市内 宿泊施設 一覧

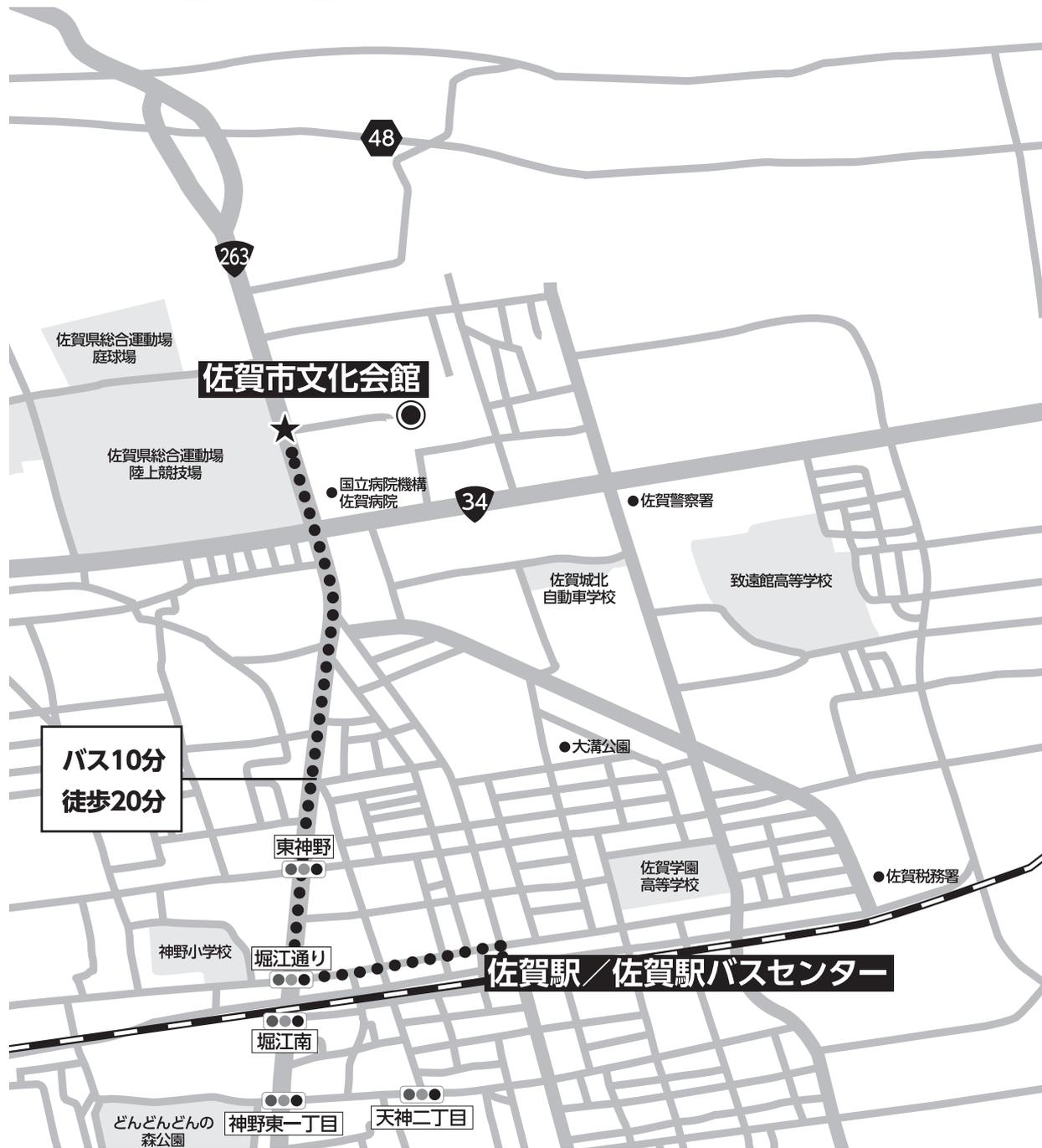


# 鳥栖地区 宿泊施設 一覧





# 10月17日（金） [全体集会] 臨時シャトルバスルート



- 佐賀駅バスセンター 8番乗り場 ▶ 佐賀市文化会館前下車
- 佐賀駅バスセンター 8:30 ~ 9:45 15分間隔で運行

10月18日（土） [分科会会場] アクセス地図（徒歩での案内図）

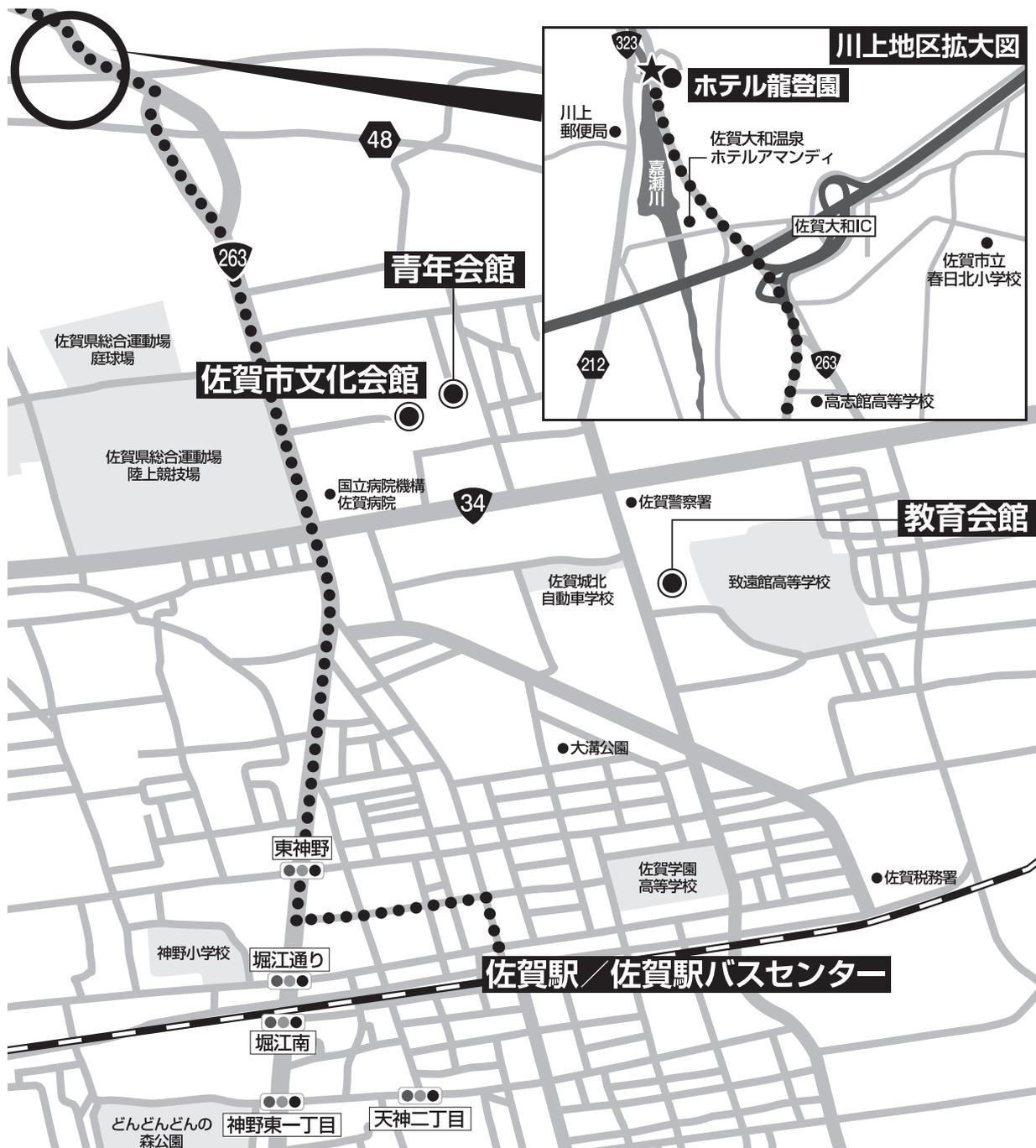


**10月18日（土） [分科会会場] 臨時シャトルバス運行ルート（A）**  
**佐賀駅バスセンター → 教育会館 → 佐賀市文化会館・青年会館**  
 （青年会館へは、佐賀市文化会館で下車の後、徒歩での移動となります）



■佐賀駅バスセンター 8番乗り場 ▶ 教育会館前下車 ▶  
 ▶ 佐賀市文化会館前下車  
 ■佐賀駅バスセンター 8:00～9:00 15分間隔で運行

10月18日（土） [分科会会場] 臨時シャトルバス運行ルート（B）  
 佐賀駅バスセンター → ホテル龍登園



■佐賀駅バスセンター 8番乗り場 ▶ ホテル龍登園下車  
 ■佐賀駅バスセンター 8:00～9:00 15分間隔で運行

10月18日（土） [分科会会場] 臨時シャトルバス運行ルート（C）  
佐賀駅バスセンター → 佐賀市民会館



■佐賀駅バスセンター 8番乗り場 ▶ 佐賀市民会館下車  
■佐賀駅バスセンター 8:00 ~ 9:00 15分間隔で運行

# VI

## 参加申し込み、昼食（お弁当）のご案内

### 1. 参加申し込みのご案内

#### (1) 参加申し込み方法

参加申込書に必要事項をご記入の上、6月下旬から7月下旬に各都道府県本部で集約いただき、以下の日程で報告をお願いします。どちらの申し込みもメールとファックスの両方をお願いします。

申し込み内容	申し込み期日	書式
参加者・宿泊人数・宿泊ランク、お弁当の申し込み	8月1日（金） ～8月15日（金）	39ページの書式 データは発文に添付しています
最終のお名前報告	9月5日（金）	8月中旬に各県本部宛に発文します

※ 自治研集会では託児所を準備いたします。必要人数を把握するため、託児所をご希望の方は、お子様の人数をご記入ください。料金・託児内容はあらためて実行委員会よりご案内します。

※ 車椅子でご参加される場合には、その旨申込書にご記入ください。すべての分科会会場がバリアフリーではないため、あらためて実行委員会よりご案内します。

※ 手話通訳、点字資料等のご希望などありましたら、伝言メモ欄にご記入ください。

#### (2) 申し込みおよび問い合わせ先

「第35回地方自治研究全国集会佐賀県実行委員会」申込受付係（JTB九州佐賀支店内）  
〒840-0825 佐賀市中央本町1-10 ニュー寺元ビル内  
電話：0952-23-7180 営業日・時間  
FAX：0952-23-1165 平日：9時30分～17時30分  
E-mail：t\_ohsue415@kys.jtb.jp 土・日・祝日：休業

#### (3) 参加費

集会参加費は、10,000円（会場費、資料代）です。昼食代・宿泊費の料金は含みません。関連イベント、第4分科会へ参加される場合は別途、参加費がかかります。

#### (4) 参加費納入日

参加費の前納、昼食・宿泊料金納入期日は、10月10日（金）です。

※ 申込締切後、9月26日（金）までに①確認書（参加、弁当、宿泊、託児所）、②請求書（振込口座）、③宿泊案内、④その他関係書類等を県本部・ご担当者宛にお送りします。

#### (5) 最終報告後の変更方法について

9月5日（金）以降、参加者の変更・追加・取り消しについては、参加申込書または確認書に見え消しの上、メールまたはファックスにてご連絡ください。なお、電話での変更等は、トラブルの原因になりますので、ご遠慮願います。

### 2. 昼食（お弁当）のご案内

10月17日（金）、18日（土）両日ともご用意させていただきます。特に、集会会場付近には飲食店が少ないため、参加者に対しては、原則的にお弁当をご用意させていただきます。弁当代は、一食につき1,000円（税込み）です。前納制とし、参加費とともに請求させていただきます。

「第35回地方自治研究全国集会佐賀実行委員会」申込受付係（JTB九州佐賀支店内）

電話：0952-23-7180

FAX：0952-23-1165

E-mail：t\_ohsue415@kys.jtb.jp

報告日： 年 月 日

第35回地方自治研究全国集会参加申込書（第一次） 2014年8月15日申込締切

報告者連絡先			
都道府県名		電話	
担当者名前		FAX	
フリガナ		E-mail	

参加者・宿泊人数			
参加者数			人
宿泊者内訳			
10月16日（木）	男		人
	女		人
	計		人
10月17日（金）	男		人
	女		人
	計		人
10月18日（土）	男		人
	女		人
	計		人

分科会への参加人数	
第2日目（10月18日）	
第1分科会	人
第2分科会	人
第3分科会	人
第4分科会	人
第5分科会	人
第6分科会	人
第7分科会	人
第8分科会	人
第9分科会	人
第10分科会	人
第11分科会	人
第12分科会	人
第13分科会	人

宿泊ランク			
希望の番号に○印をご記入ください。			
1人1室	第1希望	第2希望	
	①	①	
	②	②	
3~5人1室	③	③	
	④	④	

関連イベント ＜コースのご案内＞	
コース①：「歴代自治研」	人
コース②：「UNDER35」	人
コース③：「ナイトウォーク」	人

※ ツインルーム及び喫煙・禁煙部屋をご希望の場合は、その旨を伝言メモ欄にご記入ください。

JR鳥栖駅⇄佐賀駅 乗車券		
		枚
弁当		
10/17（金）		個
10/18（土）		個
その他		
手話通訳者		人
車椅子利用		人
託児所利用		人
		歳

伝言メモ	
喫煙部屋希望	部屋
禁煙部屋希望	部屋
合計	部屋

## 第35回佐賀自治研集会一般（市民）参加申込書

<お申込みに当たって>

集会の詳細については、開催募集要項をご覧ください。

お名前		電話番号	
フリガナ		ファックス	
所属			
性別	男 / 女	E-mail	
ご住所	〒		

<宿泊の希望>※募集要項24ページ ○でお選び下さい。

お部屋のタイプ	①～③ 1人1室（シングル） *ツインルームをご希望の方は備考欄へご記入下さい。 ④ 3～5人1室（和室タイプ）
タバコ	喫煙 / 禁煙 *ご希望通りお手配出来ない場合がございます。
ホテルランク	第一希望 ① / ② / ③ / ④
	第二希望 ① / ② / ③ / ④
宿泊の有無	10/16（木） / 10/17（金） / 10/18（土）

<鳥栖駅⇄佐賀駅 乗車券>※募集要項25ページ

JR乗車券	枚
-------	---

<お弁当>

お弁当	10/17（金） / 10/18（土）
-----	---------------------

<全体集会>参加を希望される項目に○印をご記入下さい。

第1日目の全体集会 10/17（金）		関連イベント	コース①：「歴代自治研」 コース②：「UNDER35」 コース③：「ナイトウォーク」
-----------------------	--	--------	--

<分科会>※募集要項8～20ページ

テーマ別分科会 10/18（土）	① / ② / ③ / ④ / ⑤ / ⑥ / ⑦ / ⑧ / ⑨ / ⑩ / ⑪ / ⑫ / ⑬
---------------------	--

<その他>

その他	手話通訳者 / 車椅子利用 / 託児所（人数、年齢）
-----	----------------------------

<備考欄>

--

<申し込み及び問い合わせ先>

「第35回地方自治研究全国集会佐賀県実行委員会」申込受付係（JTB九州佐賀支店内）  
 〒840-0825 佐賀市中央本町1-10 ニュー寺元ビル内  
 電話：0952-23-7180 営業日・時間  
 FAX：0952-23-1165 平日：9時30分～17時30分  
 E-mail：t\_ohsue415@kys.jtb.jp 土・日・祝日：休業

佐賀自治研のみどころ  
発信中!



まちの  
実例が  
ここにある

☆☆☆ お得な年間購読をお申し込みください。☆☆☆

月刊自治研

編集：自治研中央推進委員会  
毎月1回発行  
A5判変形  
定期購読料は年度分  
一括払いです  
8,028円(税・送料込) 1冊のみ822円

●お申し込みは

株式会社 自治労サービス  
自治労出版センター

TEL 03(3263)2023 / FAX 03(5213)5485

自治研のホームページからも購入できます。URL <http://www.jichiro.gr.jp/jichiken/>

申込先 株式会社 自治労サービス 自治労出版センター FAX 03-5213-5485

## 「月刊自治研」申込票

ご住所 〒 -

会社・団体名 \_\_\_\_\_ お名前 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

年間購読のお申し込み \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月号より \_\_\_\_\_ 部

特定した号、バックナンバーのお申し込み \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月号 \_\_\_\_\_ 部

# 佐賀自治研

(第35回地方自治研究全国集会)



創ろう、市民自治のゆたかな社会

毎日の仕事、ちょっと先。さがしてみよう、わがまちの未来